

月刊きょうと教育通信

vol. 8 平成15年6月号 発行：京都市教育委員会企画課（222-3768）

平成15年度全市校長・園長研修会を開催(4月15日)

4月15日、「京都市立学校校長・園長研修会」を総合教育センターで開催しました。門川大作教育長が、「パワー・スピード・ハートをモットーに、教職員、所属職員、あるいは地域、保護者の皆さんと、心の通じる熱い関係を構築することで、子どもたち一人ひとりの学びを一層充実したものと発展させたい」と決意を述べ、出席した校長・園長と教育委員会職員約650人は、本市教育の新たな展望を切り拓く決意を新たにしました。

平成15年度の出発にあたって（門川教育長の話し要旨）
本市では、全国をリードする数多くの輝かしい教育実践が展開されている。

特に、教育を重視する榊本市政のもと、教職員の献身的な尽力とあいまって「教育の先進都市」が進展しており、一層重要な年である今年はさらにその充実を目指さなければならない。

先輩方が築き上げてこられた歴史と伝統のもと、一人一人が努力と研鑽により磨き上げた力を余すことなく発揮し、職務に全力投球してほしい。

校長・園長に望むこと

1 「学校づくりにおける校長の熱意～校長がかわれば学校が変わる～」
学校づくりにおける校長先生の熱意は誠に重要であり、教職員・保護者・地域にも想像以上に伝わるものである。顔の見える、存在感ある校長先生になってほしい。



決意を述べる門川教育長

2 「徹底して、開かれた学校づくり、地域とともに歩む学校づくり」

学校・家庭・地域が「情報」、「課題」、「行動」、「評価」を共有することこそが、学校と地域・家庭の双方向の強固な信頼関係の基盤である。外部評価の実施を含め、京都ならではの学校改革を大胆に進めていただきたい。

3 「教職員一人一人の可能性を最大限に引き出す」

「学校づくり」にあたっては、校長が教職員一人一人と徹底的なコミュニケーションを図り、人間関係・信頼関係が築き上げられていることが不可欠である。

4 「組織を挙げて徹底した意識改革を」

改革すること、また新しいことに挑戦するには勇気が必要である。しかしながら、「前向きな失敗は教育委員会が組織をあげて全面的にバックアップする」という姿勢を今後も貫き通していくので、大いに新たな教育を創造していただきたい。

ご意見・お問合せ＝企画課（222-3768）

「学生ボランティア」学校サポート事業 学生派遣に関する協定を締結



調印式を終えた門川教育長と坂井東洋男京都産業大学学長



調印式を終えた門川教育長と長田豊臣立命館大学学長

5月2日、15年度の新規事業である「学生ボランティア」学校サポート事業の最初の提携大学として、京都産業大学と学生の派遣に関する協定書を締結しました。これは、大学との連携のもと、学生を市立学校・幼稚園に派遣し、教科や部活動の指導補助等により子どもに対するきめ細かな指導を充実、また学校・園での教育活動体験を通して、学生が自己の資質向上を図る機会とするものです。

引き続き、京都教育大学、成安造形大学、立命館大学、佛教大学とも協定書を締結し、学生ボランティアを募集しています。現在75校園からのべ約350人の派遣希望があり、そのうち10校を超える学校で既に学生が活動を始めております。

今後、連携大学を拡大し、学生の派遣を進めていきます。ご意見・お問合せ＝教育計画課（222-3815）

募集内容については、教育計画課のホームページに掲載（H.アドレス<http://www.city.kyoto.jp/kyoiku/kyoikukeikaku/>）

ニュースダイジェスト

< 4月 >

- 23日 こども読書フォーラムに500人が参加し、本が好きな子どもを育てるための意見を出し合う。
- 29日 京都市中学校春季総合体育大会開会式をブラスバンドの演奏のもと盛大に開催。8,000人の生徒が行進。

< 5月 >

- 7日 京都御池中学校・複合施設の整備等にPFI手法を導入することを発表。民間業者を対象とした説明会（22日）には65社が集まる。
- 16日 ゴールデンエイジアアカデミー1000回記念講演会を開催。千玄室氏の講演に850人集まる
- 17日 西京高等学校附属中学校学校説明会に6,500人が参加。中高一貫教育に対する保護者・児童の熱意がさらに高まる。
- 23日 構造改革特区「京の人づくり推進特区」が認定され、本市独自財源で常勤講師任用による小学校低学年での35人学級導入が高く評価される。
- 27日 教員評価に関する調査研究協力者会議の初回分を開催。今後3年間にわたって新たな教員評価システムの導入を検討する。

全国初の専門機関

こども相談センター パトナがオープン

4月28日、不登校をはじめとする、子どもたちの心の叫びを受け止め、自立を促す効果的な支援を柔軟かつ機動的、専門的に行う「京都市教育相談総合センター」(愛称:こども相談センター パトナ)の開所式を行いました。

このセンターは、「教育相談」「生徒指導」に関する部門を集約し、不登校の子どもたちの活動の場である「ふれあいの杜」を充実・一体化した全国初の専門機関。また、平日夜間と土・日曜も開館する相談センターです。41人の専任カウンセラーが、事前予約制で相談(254-1108)に応じるとともに、日曜には予約不要の「日曜不登校相談」、電話で適切な相談機関を紹介する「こども相談総合案内」(254-8107)など、さまざまな活動を行います。

開所式に引き続き「初音の庭披露式」において、環境芸術家・八木マリヨ氏の作品庭園「地の響」の紹介、水琴窟に初めて水を通す「初音式」を行いました。



また、5月25日には、オープニング記念イベントとして、河合隼雄氏記念講演会が約450名の参加者のもとで行われ、「今は、お金や物があって便利になり、人との関わり合い方が難しくなっている。人との関わり合いには心でぶつかり合うことが大切。」と物の豊かさと人との関わり合いについて講演されました。

パトナが開所してから約2ヶ月が経ち、悩みを抱える多数の子どもたちが訪れ、子どもたちの心の拠り所となっています。

ご意見・お問合せ = 教育相談総合センター(254-7900)

新生！西京高等学校が開校！



序幕を行う
梶本市長

「新生西京高校」が4月2日に開校しました。新しい学科「エンタープライジング科」を設置し、京都の大学や企業から講師を招いた授業など、実社会との連携を重視し、起業家精神や科学的思考力をもつ人材育成を目指します。

開校式では、梶本頼兼市長が「明治19年の開校以来、日本の社会・経済をリードする人材を輩出してきた西京が新たな出発を迎え、『教育の先進都市・京都』の新たな礎を築き、日本を代表する高校になることと確信しています。」と祝辞を述べました。引き続き生徒代表による誓いのことばがあり、梶本市長からエンタープライジング科一期生に新しい校旗が手渡されました。また、校舎前では、校名板の除幕が行われ、新しい学校の門出に花を添えました。

京都御池中学校が開校！



梶本市長から小椋佳さんへ
記念品贈呈

4月3日、京都城巽中学校と京都柳池中学校との統合により、「京都御池中学校」が開校し、その開校式を行いました。開校式では、旧校それぞれの生徒会長が誓いのことばを述べました。その後、作詞作曲家の小椋佳さんが作られた新しい校歌「風上に立つ日のために」を小椋佳さんご本人にもご登壇いただき、生徒ら出席者全員で合唱しました。

今後、18年4月の完成・移転に向けて京都柳池中跡地に建設する新校舎は、老人デイサービスセンター、乳幼児保育所や賑わい施設などを併設する複合施設として整備。教育関連施設としては、政令指定都市で初めてPFI手法(民間事業者の技術力や資金等を活用するもの)を導入して整備を進めます。